昭和21年7月10日第3種郵便物認可
紀伊民報

# 福島での経験を報告

## 田辺市長に 田辺工業高の2人

田辺工業高校（田辺市あけぼの）生徒会役員の3年生亀井遼君（17）と2年生中松美穂さん（17）は8月29日、田辺市役所を訪れ、参加した福島県いわき市での「ハイスクールサミット」について真砂充敏市長に報告した。東日本大震災の被災地を含む全国の高校生と意見を交わしたり、被災地を見学したりしたことを伝えた。

参加した催しは8～10日にあった「未来のまちづくり・みちづくりフォーラム ハイスクールサミット in東北」（実行委員会主催）。21道県35校の高校生が、震災からの復興や備えなどを踏まえ「私たちの未来は、私たちの手で」をメーンテーマに語った。被災地も視察した。

2人は「津波被災地のこれからを考えよう」について他校の生徒と話し合い、隣近所でグループをつくって普段のつながりを深め、避難時に支援し合う「隣組制度」を提案し発表した。旅費は全国治水砂防協会県支部（支部長・真砂市長）が支援した。

この日2人は、教員とともに市役所を訪れ、真砂市長に旅費のお礼を伝え、全国の高校生と話し合ったことや被災地を見学したことなどを通じ、良い勉強や経験になったことを報告した。真砂市長は「百聞は一見にしかず。どんなところで経験を生かしていくか考えてもらいたい。防災やまちづくりなど、テーマに合わせて一緒にディスカッションをさせてもらえたらと思う」と話した。

2人の感想は同校のホームページに掲載しているほか、10月にある同校での文化祭でも報告する予定。亀井君は「家族や近所の人と震災が起きたときにどうするかを話し、隣組制度を実践していきたい。文化祭では見たまま、思ったままを伝えたい」、中松さんは「パーソナリティーをしているラジオなどで発信できたらと思う。文化祭では田辺で地震が起きたときにどうすべきかをみんなに考えてもらいたい」と話した。

真砂充敏市長に報告する亀井遼君（中央）と中松美穂さん（左）＝田辺市新屋敷町で